
ノーヒットノーラン

YB3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノーヒットノーラン

【Nコード】

N5925D

【作者名】

YB3

【あらすじ】

BUMPOFCHICKENの「ノーヒットノーラン」の歌詞を小説風にしてみました。

今日は甲子園の決勝戦最終回裏の2アウトランナー無し
俺はチームの4番エースこの試合まで投げ続けてきた。
最後の大会で1 - 0の1点差で負けている。

バッターは3番こいつは俺と今までバッテリーを組んできていた。
こいつなら何かやってくれるそう信じていた。

もう時間が遅く白色のライトがつく、それと同時に主審のフォアボールの声

ゆっくりと一塁ベースに向かうあいつ、一塁ベースにつくと声をかけてきた。

「頼む、打ってくれ」

すると大観衆の中ベンチからチームメイトの声が聞こえた。

「あいつなら打ってくれる」そんな声だった・・・

俺はネクストバッターサークルを立ち上がりゆっくりとバッターボックスに向かう

さつき点いたばかりの白いライトを浴びみんなの期待を背負って

観客席からは「頼むぞ4番!!」などの声が聞こえてくる。

ネクストバッターサークルの前にマネージャーがつぶやいていた、

「このままじゃノーヒットノーランだよ・・・」

そんなことはわかっている、マネージャーのため息に勇気がかき消されていた。

だが俺には「俺にまかせろ」という事しかできなかった。

出来ればこのまま帰りたいかった。

平成の怪物と呼ばれた男でもおびえるように俺だっておびえるんだ・

・

だがココで逃げるとノーヒットノーランだ・・・
ノーヒットノーランのままじゃ俺の存在価値は無い・・・

バッターボックスの前でバットのグリップを絞り
投手の方にバットを向け、ヘルメットを深くかぶりなおす。
いつも打席に入る前のジンクスだった。

今でも手足は震えている。

この手足を落ち着かすためのジンクスを終えて
相手投手をからかうようにニヤリと笑う。

ボールが二球続き、打席を一度外す。

チームメイトが叫ぶ「打ってくれ!!」

俺は大声で「まかせろ」と胸を叩き打席に入る。

相手投手が投球動作に入る・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5925d/>

ノーヒットノーラン

2010年11月27日20時01分発行